

2019年度

学校評価  
自己評価報告書

<内 容>

- 1 学校の現況
- 2 評価の基本方針
- 3 重点目標
- 4 学校評価 自己評価
- 5 学校関係者評価用紙
- 6 学校関係者評価（報告）

令和2年2月

茨城県立中央看護専門学校

# 1 学校の現況

## 1) 設置目的

本校は、保健師助産師看護師法の助産師又は看護師として必要な知識及び技術を修得させ、豊かな人間性を養い、専門職業人としての自覚と責任をもって社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

## 2) 沿革

- 所在地 茨城県笠間市鯉淵 6528 TEL 0296-77-0533 (代表)
- 沿革
  - 昭和 29 年 県立准看護婦養成所設置
  - 昭和 37 年 県立高等看護学院設置 (課程変更)
  - 昭和 40 年 県立公衆衛生看護学校を統合、県立看護専門学校に
  - 昭和 45 年 公衆衛生看護学科を保健助産学科に変更
  - 昭和 54 年 保健助産学科を助産学科に変更
  - 昭和 59 年 現在地に移転
  - 平成 2 年 学生寮竣工
  - 平成 3 年 創立 30 周年像「薫風」建立 (日展理事 能島征二氏制作)
  - 平成 14 年 専修学校に認可
  - 平成 16 年 県立水戸看護専門学校を統合、県立中央看護専門学校と改名  
講義棟増築 助産学科 (就業年限 1 年 定員 15 名)  
看護学科 3 年課程 (定員 120 名) 看護学科 2 年課程 (定員 160 名)
  - 平成 24 年 創立 50 周年記念「天使の椅子」建立 (日展理事 能島征二氏制作)

## 3) 教育理念, 目的

### <教育理念>

学生の個性や主体性を尊重し、全人的な存在としての自己および他者の理解に目を向けられる豊かな人間性と倫理性を育む。また、専門職業人として、生涯学び続け、他の専門職などと連携・協働し、社会の動向を見据え、常に必要かつ最高の看護を提供し、人々の健康と福祉の向上に貢献できる実践者を育成する。

### <教育目的>

助産師又は看護師として必要な専門的な知識及び技術を修得させ、豊かな人間性を養い職業人として自覚と責任をもって社会に貢献できる有能な人材を育成する。

## 4) 学生数及び教職員数

### <学科及び学生数>

学科	入学定員	修業年限	現員(4月)	2月1日現在
助産学科	25人	1年	25人	24人 (退学1)
看護学科 3年課程	40人	3年	118人	116人 (休学1, 退学1)
看護学科 2年課程	40人	2年	67人	63人 (休学1, 退学2, 不1)
合計	225人	—	210人	203人 (休学2, 退学4, 不1)

### <教職員>

学校長 (管理職)	事務 3 人	副参事兼教頭 (管理職)
		主査, 係長
	教員 30 人 ※育休等 2 名含む	教頭
		助産学科 6 人 (教務主任, 専任教員 5 人)
		3 年課程 14 人 (教務主任, 専任教員 13 人 (教員研修 1, 育休 1 含む))
2 年課程 9 人 (教務主任, 専任教員 8 人)		

## 5) 施設の概要

- 施設 鉄筋コンクリート 3階建 延面積 5485 m<sup>2</sup>

## 6) 評価実施と評価体制

本校は「社会に貢献できる質の高い助産師・看護師の養成」の実現を目指して、教育の質の向上を図るため、平成 17 年度より教職員による自己評価を実施し、学校運営の改善に努めている。評価の結果は平成 25 年度よりホームページに公表している。

平成 25 年 3 月に文部科学省生涯学習政策局通知「専修学校における学校評価ガイドライン」が示され、それをもとに評価項目を見直し、新たな項目による自己評価は平成 27 年度より実施している。

今年度は学校関係者の方から自己評価に対する客観的な評価・ご意見をいただき、より客観性・透明性な評価を高めるとともに、教育機関としての学校運営の質向上を図るため、学校関係者評価を実施した。

校内の評価体制は、運営方針及び運営管理に関する業務は学校評価委員会を、実務的な評価業務はワーキングチームを置き、それぞれの役割は「県立中央看護専門学校における教育活動等の評価に関する実施要項」に定め、適切な運営に取り組んでいる。

## 2 評価の基本方針

- (1) 学校の教育目標、計画に沿った取組の達成状況、学校運営に係る取組が適切に行われているかを自己評価し、それらの課題を継続的に改善を図るとともに、評価結果を公表する。
- (2) 自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、看護師・助産師教育に関連する施設、卒業生、保護者、地域の関連機関など、学校と密接に関連する関係者への理解を促し、継続した連携協力体制を確保するため、教育関連施設・地域関係者、卒業生、保護者等学校関係者から規程に基づき選任した委員による「学校関係者評価委員会」を設置し「学校関係者評価」を実施する。  
評価結果及び改善への取組をホームページに掲載し広く社会に公表する。

## 3 重点目標

### 1) 重点目標に関連した自己評価項目・結果

#### ○自己評価の評価基準

5：強くそう思う（よい）	2：そう思わない（やや不十分）
4：そう思う（ややよい）	1：まったくそう思わない（不十分）
3：どちらともいえない	0：わからない

#### ○重点目標に関連する自己評価の項目及びその評価

助産学科・3年課程・2年課程の評価範囲 ※青字：3.5未満，赤字：2点台

重点目標	評価項目	評価	
1 教育環境を整備し、教育の充実を図る。	1) 教育内容・方法の充実を図る。 (カリキュラム改正に向けた取り組み)	3-14 4.0~4.8 3-15 4.0~4.8 3-16 4.0~5.0	
	2) <b>実習施設と連携し、学習環境を整備する。</b>	5-36 3.7~5.0 <b>6-47 3.1~4.2</b>	
	3) <b>図書室の蔵書・視聴覚教材の購入を計画し学習環境を整備する。</b>	<b>6-40 2.3~3.8</b> <b>41 2.2~4.0</b> <b>42 2.2~3.4</b>	
	4) 実習指導要領を点検・整備する。	3-14 4.0~4.8	
	2 学校運営・管理を強化し、組織の充実を図る。	1) 学校評価の充実を図る。 (学校関係者評価の実施)	2-4 3.8~4.0 8 4.0~5.0
		2) 危機管理マニュアルの共通理解を図り、活用できる。	<b>2-10 3.2~4.7</b> 6-48 4.2~5.0

	3) <b>人材を育成する。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>教員間の支援体制の強化</b></li> <li>・ 実習指導や学年運営の時間的バランス調整</li> <li>・ 教員の資質向上に繋がる自己研修の強化</li> <li>・ 組織全体で新任教員の支援</li> <li>・ 実習施設との教育連携の強化</li> </ul>	3-22 23 24 25	3.4~4.0 3.8~5.0 3.3~5.0 2.5~4.0
	4) 適正な入学生を確保する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校のPR活動の強化</li> <li>・ 入学試験方法の検討</li> </ul>	7-49 50 51 52	4.0~5.0 4.0~5.0 4.0~5.0 3.0~5.0
	5) 国家試験合格率の維持・向上及び県内終了率80%以上を推進する。	3-18 4-27	4.0~5.0 4.5~5.0
	6) 業務の効果的・効率的な運営を図る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会議の合理的・効果的な実施</li> </ul>	2-9	3.0~4.0
	7) 職場環境の改善を図る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時差出勤の活用, 計画的な年休取得, 休養室の活用など</li> </ul>	該当項目なし	

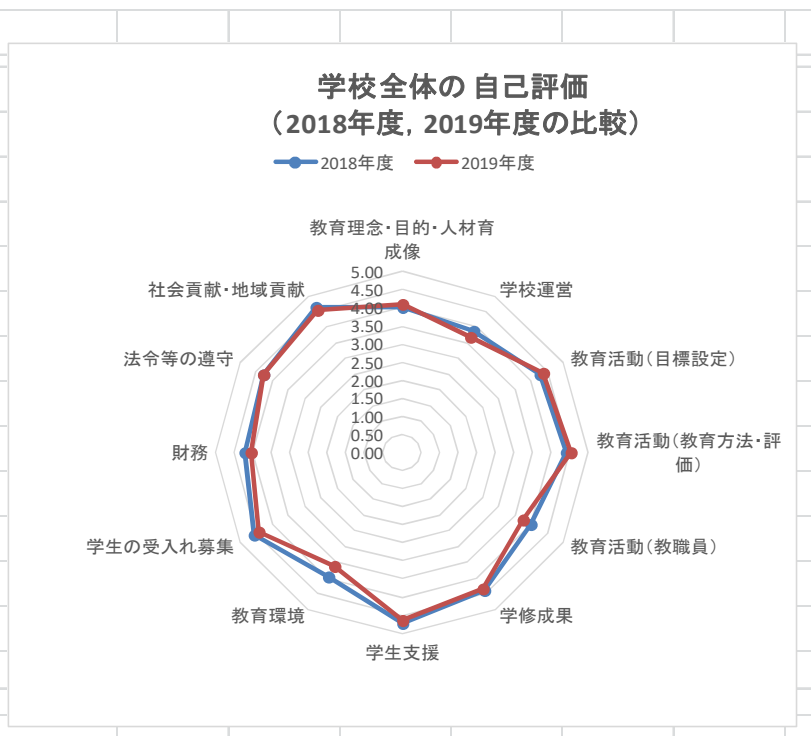
2) 今年度の取組状況 ※令和2年1月まで

目標項目	内容	結果
重点目標1	1) 今年度の運営方針・重点目標, 組織構成, 業務分担, 行事予定, 新カリキュラム改正の準備の推進	4月教職員会議 (学校長より周知)
	教育教材の購入計画 (通常備品)	4・5月運営会議 (決定)
	3) 教育教材の購入計画 (高額備品)	5・6月運営会議 (決定)
	実習委託費増額の検討	6月主管課意見交換会 (提案)
	2) 実習状況報告・課題の共有・改善 (検討)	教員会議, 実習指導者会議
4) 実習指導要領の活用, 内容点検	教員会議 (検討)	
重点目標2	高校訪問・進学ガイダンス, 就職説明会の企画	5月運営会議 (決定)
	オープンキャンパス企画	6月運営会議 (決定)
	4) 各学科推薦入学試験の企画	10月運営会議 (決定)
	各学科推薦入学試験の運営	10月入試委員会 (決定)
	各学科一般入学試験の企画	11月運営会議 (決定)
	各学科一般入学試験の運営	12月入試委員会 (決定)
	各学科の就職状況	12月運営会議 (報告)
	2) 休校時の緊急連絡方法の検討	9月運営会議 (決定)
	生徒寮の安全点検 (防犯カメラ), 管理方法の検討	9月運営会議 (決定)
	5) 国家試験対策の策定	6月運営会議 (決定)
	国家試験対策の成果 (現況)	12・1 運営会議 (報告)
	3) 教職員の研修計画・費用 (新カリキュラム重点)	4~6月運営会議 (決定)
	新 教育連携研修の企画 (中央病院・日立メヂカルセンター看専)	7月運営会議 (決定)
	7) 総実勤務時間の短縮・テレワークの活用	5月運営会議 (説明)
	業務見直し (検討)	9月主管課意見交換会
6) 教職員ストレスチェックの概要, 業務の効率化推進	12月運営会議 (報告)	
1) 学校評価 (自己評価・関係者評価) 企画	6~12月運営会議 (決定)	

#### 4 学校評価 自己評価

##### 1) 学校全体 自己評価

○ 学校全体の自己評価		
評価項目	2019年度	2018年度
1 教育理念・目的・人材育成	4.09	4.03
2 学校運営	3.68	3.87
3 教育活動(目標設定)	4.38	4.30
4 教育活動(教育方法・評価)	4.55	4.42
5 教育活動(教職員)	3.75	4.00
6 学修成果	4.35	4.42
7 学生支援	4.65	4.71
8 教育環境	3.64	3.95
9 学生の受入れ募集	4.42	4.57
10 財務	4.02	4.22
11 法令等の遵守	4.29	4.27
12 社会貢献・地域貢献	4.54	4.63
平均	4.20	4.28



#### 【結果】

- ・ 項目別平均は 3.64 から 4.65 の範囲内である。基準点 3.50 以下の項目はなし。
- ・ 3.6～3.9 の低層内には 3 項目（学校運営，教育活動(教職員)，教育環境）がある。
- ・ 4.5 以上は 3 項目（学生支援，教育活動(教育方法・評価)，社会貢献・地域貢献）がある。
- ・ 各項目の値は昨年度よりやや低めに推移，若干の差はあるが昨年度とほぼ同様の結果である。

##### 2) 各学科の評価

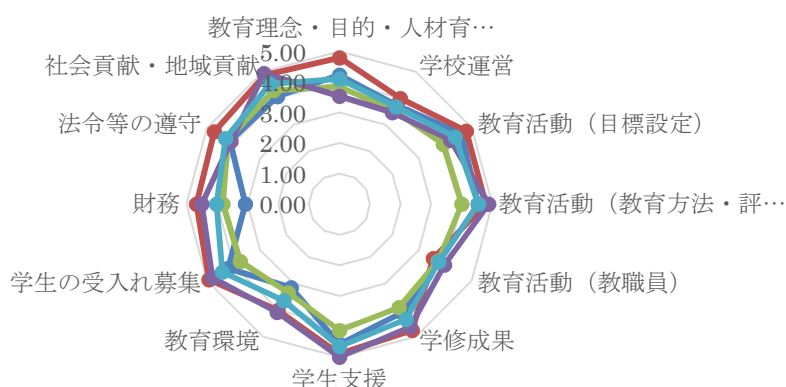
○ 検討対象項目の選定基準：平均値 3.50 以下

各学科の結果 基準値 3.50 未満：赤字 4.60 以上：青字

評価項目	助産学科	3年課程	2年課程	庶務	全体平均
1 教育理念・目的・人材育成	4.22	4.79	3.83	3.53	4.09
2 学校運営	3.74	3.99	3.54	3.46	3.68
3 教育活動(目標設定)	4.61	4.79	3.92	4.20	4.38
4 教育活動(教育方法・評価)	4.53	4.79	4.00	4.88	4.55
5 教育活動(教職員)	3.76	3.55	3.73	3.97	3.75
6 学修成果	4.10	4.76	3.90	4.64	4.35
7 学生支援	4.58	4.90	4.13	5.00	4.65
8 教育環境	3.15	4.01	3.34	4.08	3.64
9 学生の受入れ募集	4.21	4.93	3.75	4.80	4.42
10 財務	3.08	4.68	3.81	4.50	4.02
11 法令等の遵守	4.13	4.73	4.22	4.10	4.29
12 社会貢献・地域貢献	4.06	4.88	4.29	4.93	4.54

## 学校評価 自己点検（学科別評価）

● 助産学科 ● 3年課程 ● 2年課程 ● 庶務 ● 平均



### <助産学科>

- (1) 低い評価（基準 3.50 未満）の項目は**教育環境**と**財務**である。
  - ・ **教育環境**では、低値の要因として 2 点挙げた。
    - ① **実習室のプロジェクターが故障**，視聴覚教材は VHS から DVD へ切り替えている段階で使用制限がある。**図書は古書から新刊に切り替えているが十分に整備されていない。**
    - ② **学生寮の老朽化**による設備不良や**洗面所に給湯設備がない**ため，学生から整備の要望が高い。
  - ・ **財務**では、低値の要因として 2 点挙げた。
    - ① 冷暖房の使用を節約しているが，その効果の評価していない。
    - ② 備品・消耗品を購入・**ICT 機器の購入計画（新カリキュラム改正を視野に入れた財源確保）**の検討をしていない（授業料等の改定も可では）。
- (2) 高い評価（4.60 以上）の項目
  - ・ 教育活動（目標設定）で例年，評価が高い。
- (3) 課題
  - ・ 教育環境については，視聴覚教材・図書の使用状況を確認し，課題整備の計画を立てる。
  - ・ 学生寮の給湯設備については，現況を確認し，生活環境の改善に向けて検討を進める。
  - ・ WiFi 環境を改善し，ICT を導入できる環境を検討する。

### <3年課程>

- (1) 低い評価（基準 3.50 未満）の項目はない。教育活動（教職員）が評価 3.55 とやや低い。
  - ・ **教育活動（教職員）**の低値の要因として，教員の授業担当は専門分野以外も担当することが多く，その分野の授業準備に相当数の時間を要する。そのため，専門分野以外の実地研修を希望する教員もいるが，季節休業期間中は再実習の指導等により研修計画を立てにくい状況である。
  - ・ 講師から防災時の避難経路について質問があった。校舎内の掲示等の対応の不足があった。
- (2) 高い評価（4.60 以上）の項目
  - ・ 低い項目以外の 9 項目は殆ど高い評価であった。
- (3) 課題
  - ・ 専門分野以外の授業準備には相当数の時間を要しているため，その改善として実務研修を行う機会を設けること，勤務状況に応じて計画的に進める。
  - ・ 避難場所と避難経路を教室・講師室等に掲示し周知を図る。

## <2年課程>

- (1) 低い評価（基準 3.50 未満）の項目は**教育環境**である。基準に近い項目は学校運営 3.54 である。
  - ・教育環境では、低値の要因として 3 点挙げられた。
    - ①と②は助産学科の記載内容と同様。
  - ・学校運営は 3.50 未満ではないが 3.54 と低く、その要因として、長期・短期目標が明確でないこと、教務事務が煩雑で業務の効率化に繋がっていないことが挙げられた。
- (2) 高い評価（4.60 以上）の項目
  - ・該当なし。
- (3) 課題
  - ・教育環境と WiFi 環境、学生寮については、助産学科の記載内容と同様。

## <庶務>

- (1) 低い評価（基準 3.50 未満）の項目は**学校運営**である。
  - ・学校運営では、低値の要因として 5 点が挙げられた。
    - ①将来構想及び長期・短期計画が明文化されていない。
    - ②教務・財務（事務）の組織上の整備に関する評価視点が不明瞭である。
    - ③情報システム化による業務の効率化に関して、組織内のデータが雑然として活用しにくい。
    - ④業務遂行において予算の裏付けが前提であるが、遂行後の措置が多い。
    - ⑤危機管理マニュアルをの運営上、実務的な要領が必要である。
- (2) 高い評価（4.60 以上）の項目
  - ・教育活動（教育方法・評価）、学修成果、学生支援、学生の受入れ募集、社会貢献等の 5 項目
- (3) 課題
  - ・将来構想及び長期・中期・短期目標の考え方を整理し明文化する。
  - ・教務・財務（事務）の業務の見直し、組織運営の効率化を図る。
  - ・学校データ（Z ファイル）を各学科で整理する。その後、担当者を選任し管理する。
  - ・予算執行状況報告を事務担当者から定期的（中間・最終）報告の機会を設ける。
  - ・危機管理マニュアルを基に実務的な要領を策定する。

## 3) 学校全体の評価

### (1) 学校運営

- ①将来構想及び長期・中期・短期目標の考え方を整理し明文化する。
- ②教務・財務（事務）の効果的・効率的な運営に繋がるよう業務の点検・整理、見直しを行う。
- ③学校のデータを活用しやすく学科内のデータを整理する。
- ④職員の教育活動と予算執行に関する認識を高めるため、予算執行状況報告を定期的に行う。
- ⑤危機管理マニュアルの実施要領を整備する。（必要事項を段階的に整備）

### (2) 教育活動（教職員）

- ①業務を効率的に遂行し時間外勤務を削減に向けた業務調整（教員間・事務との調整）を行う。
- ②実習指導の嘱託職員（看護師）、教務事務、専任教員等の安定した人員確保に繋がるよう個別面談を実施し、業務の継続意思の確認、また必要時は募集活動を計画的に行う。



### (3) 教育環境

- ①教育環境の充実に向けて、視聴覚教材・図書の使用状況・消耗度を確認し、質・量の観点から計画的に整備を進める。
- ②WiFi 環境を改善し、ICT を導入できる環境を整える。(県との調整が必要)
- ③学生寮の給湯設備については主管課と調整し、生活環境の改善に繋がるよう検討する。
- ④実習施設での学習環境の充実に繋がるよう実習指導者会議等を通して、施設の整備状況に応じた指導体制・学習環境の整備を進める。
  - \*指導体制…実習指導者が不在時の相談窓口
  - \*学習環境…電子カルテの閲覧の制限(施設によって学生用PW 設置の有無)、ナースステーション内での記録場所・学生間でカンファレンスができる場所が少ない。パルスオキシメータの個数が少なく、指導者にタイムリーに報告できないことが多い。

- 資料：1 県立中央看護専門学校の学校関係者評価用紙  
2 茨城県立中央看護専門学校評価に関する規程  
3 学校評価表  
4 学校要覧(2019年度)  
5 学校案内  
6 募集要項



## 県立中央看護専門学校の学校関係者評価用紙

日 時：令和2年2月6日（木）午後2時（1時間程度予定）

場 所：県立中央病院内 教育支援室

出席者：病院側 看護師長 秋山 順子（敬称省略）

看護師長 田崎 美紀（敬称省略）

学校側 学校長 荻津 綾子

教 頭 小島 朋子（進行）

### 1 学校評価 自己評価の結果

説明は小島

### 2 学校関係者からのご意見など

(1) 重点目標・今年度の取組に関すること

(2) 自己評価（学校全体・各学科）に関すること

(3) 自己評価・学校関係者評価の全般に関すること

※改善が必要と感じる事項など

### 3 その他（ご感想など）

ありがとうございました。

# 県立中央看護専門学校の関係者評価（報告）

日時：令和2年2月6日（木）午後2時から3時30分（1時間30分間）

場所：県立中央病院内 教育支援室

説明者：学校長 荻津 綾子 教頭 小島 朋子（担当）

報告者：県立中央病院 看護師長 秋山 順子 看護師長 田崎 美紀

## 1 学校評価 自己評価の結果（小島が説明）

### 2 学校関係者からのご意見など

#### (1) 重点目標・今年度の取組に関すること (2) 自己評価（学校全体・各学科）に関すること

##### (1) (2) 併せての質問と回答

#### 1 重点目標 1-3)「図書室の蔵書・視聴覚教材の購入を計画し学習環境を整備する。」に関して

質問：図書室の医学中央雑誌等の検索はできるのか。新刊図書は計画的に行っているのか。司書はいるのか。

回答：検索できる環境は整備している。新刊図書は毎年計画的に購入している。購入後は掲示し学生に案内している。司書は午後から18時まで常駐。実習後に図書室を使用する学生のために開放している。

#### 2 重点目標 2-3)「人材を育成する。・教員間の支援体制の強化」に関して

質問：教員間の支援体制の強化が低いのは？

回答：支援体制として、プリセプター制を導入し新任教員を1年間サポートしている。また中堅教員でも専門領域以外は実習調整者がサポートする等の体制を取っている。しかし、そのサポートに関して評価する項目がなく、また評価が低い項目が重点目標に繋がらないものがあつたので、評価項目 3-25「優秀な教員の確保」を評価項目に挙げた。重点目標、細目標と評価項目の整合性を課題とし、今後の改善点として取組む。

質問：実習指導者の中に学生指導は嫌いではないが、教員のように教育に責任をもてるか不安。

回答：新任教員は教育の質の担保と不安解消のため実習指導要項を活用している。学校に異動の際はその指導要領を活用してもらっている。

#### 3 重点目標 2-3)「人材を育成する。・実習施設との教育連携の強化」に関して

質問：具体的にどのような教育連携に取組んだのか。

回答：中央病院で勤務する教員養成講習会修了者3名を対して、4～5日間のシャドー研修を8・9月に実施した。看護局長の声掛けで実施したものである。教員研修で学んだ看護教育を振り返る良い機会となった。実習指導の見学では教員の立場でみた学生指導に新しい学びがあつた。実習指導者として気付かない点であつたと高評であつた。

質問：実習指導者の研修としても可能か。

回答：可能。基礎看護技術演習に参加する研修も良い。実施の際は準備期間が必要である。

質問：看護局長に相談の上、検討会を設けても良いか。

回答：検討会から準備すると良い。実習指導者が入るシミュレーション教育は有益である。

##### (3) 自己評価・学校関係者評価の全般に関すること

特になし。

### 3 その他（ご感想など）

今回の評価に参加し、教育の実態を知る機会になった。また教育の協力体制が臨床教育の質向上にも繋がり、良い機会になった。今後も継続を望む。

以上